浦　達将さん（岡山県倉敷市出身）
2018 年度 1 次隊　青年海外協力隊
派遣国：タンザニア　職種：数学教育
2019 年 11 月 3 日（日）中国新聞 SELECT 掲載

※中国新聞社の許諾を得ています

## 数学に興味 遊びで促す

「先生みたいに数学ができるようになったら、日本に行けるかな？」この言葉を生徒から聞いたのは２回目である。１回目は、アフリカ最高峰のキリマンジャロ山を有するここタンザニアのキリマンジャロ州で活動を始めた直後。おそらく初めて接する日本人に興味があったのだろう。２回目は、それから１年が過ぎようとしていた時だった。

キャプション：
セカンダリースクールの生徒が先生役となり、小学生に算数を教える

私は現在、セカンダリースクール（14～17 歳程度）の生徒に数学を教えている。日本だと中学生相当だが、半数以上の生徒が分数の計算ができなかったり、中には九九計算ができなかったりと、力が定着しているとは言い難い。活動を始めた当初はとにかく成績を上げることに必死だったが、なかなか成果が見られない日々が続いていた。

そこで、少し方針を変えて「数学に興味を持たせる」ことに重点を置くようにした。どのような所で数学が役立つのかを話し、実際に体験させる。生徒に近隣の小学生の先生役をしてもらう。ただ座って「学ぶ」だけでなく、学びの中に「遊び」を導入してみた。

その結果、わずかだが自主的に数学を学びたいという生徒が増えだした。その中から成績が上がる生徒が現れ、数学を好きになってくれる生徒もいた。その中の一人が、「日本に行けるのか」の２回目の質問者であった。

動機が何であれ、数学に興味を抱いてくれたと感じた瞬間であり、目標に向かって努力するさまに感銘を受けた瞬間でもあった。まだまだ数学が嫌いな生徒は多いが、一人でも多くの生徒が関心を抱いてくれるよう、教科書にはない「遊び」を随時取り入れていくつもりである。